



海軍道路の桜並木（上瀬谷農業専用地区内）

- 地の声 ●林市長に要望書を提出 ●神奈川県農業委員大会開催 ●農業委員会の活動をPR
- 農業委員紹介 ●農地の情報がインターネット等で取得できるようになります ●横浜市からのお知らせ
- 農を考える

地の声

昨年は冬の大雪、夏の豪雨、秋の台風と異常気象に翻弄された一年だった。夏場を中心に野菜価格が高騰し、スーパーに行っても満足に野菜が買えないこともあった。我々消費者にとっても厳しい年であったが、農家の苦労はどれほどであったのか。つらい自然災害にも負けず、おいしく安全な農作物を提供してくださる農家の方々に頭が下がるばかりである。

私が農政に携わるようになってもうすぐ一年になる。まず驚いたのは市民の方々の農業に対する関心の高さである。この一年の間に、農業まつりや農作業体験の場に何回か出向いたが、どこも大変な賑わいを見せていて、市民の方々も楽しそうにかつ真剣に農作業や農作物と向き合っていたのが印象的だった。農政に携わって、また新たな横浜の一面を知ることができてうれしく思ったものだ。

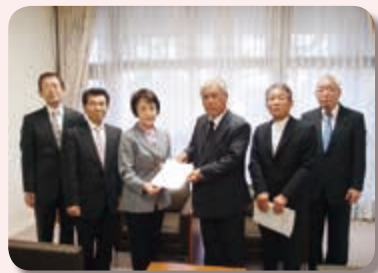
今後大都市横浜の魅力の一つとして、「まち」のすぐ近くで行われている横浜の多様な農業を積極的にアピールしていきたいと思う。

林市長に要望書を提出 ～平成27年度横浜市農業施策に関する市長要望～

農業委員会連合会は、昨年10月14日に林文子横浜市長を訪問し、平成27年度農業施策に関する要望書を手渡しました。連合会から北村会長ほか計5名の理事が出席し、食の安全と安心の確保、農地の保全と有効利用対策、担い手・経営対策、資源の有効利用や環境負荷の低減を重視した施策などについて要望しました。

北村会長は、市民の農との関わり方のニーズが年齢層によって多様化しているため、横浜独自の取組に力を入れてほしいと述べられました。理事の皆さんは、剪定枝の処理や農地の賃借に関する課題、特区農園（特定農地貸付法に基づく貸付農地）の様子などを市長に伝えました。

林市長は、日頃の農業委員会活動に対し敬意を表し、理事一人ひとりの声に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



神奈川県農業委員大会が開催されました



「農業委員の意志を集結し、農業委員会改革に反映させよう」ほか5つのスローガンを掲げた平成26年度神奈川県農業委員大会が、昨年11月12日に海老名市文化会館で開催されました。県内農業委員553名が出席しました。

今年は永年在任の功績をたたえ、杉山敏幸中央農業委員、宮田明政前中央農業委員並びに北村豁南西部農業委員会会長が表彰されました。

おめでとうございます。



左から
宮田明政前委員 北村豁会長 杉山敏幸委員

大会決議では「農業委員会制度・組織改革に関する要望」など3つの要望と、「農業委員会活動の強化に関する申合せ」の、合わせて4議案が決議されました。

また、関係機関に対して決議事項の要請活動を行う、決議実行運動計画も採択され、最後に、この決議の取組の強化と申合せ事項の着実な実践を宣言し、がんばろう三唱で閉会となりました。

農業委員会の活動をPR!

昨年11月3日、さわやかな秋晴れの中、環境活動支援センターで「農と緑のふれあい祭り～横浜みどりアップ～」が開催されました。農と緑に関連する各種体験イベントや農畜産物の販売、鶏卵や果樹の品評会も行われ、たくさんの来場者で賑わいました。

農業委員会事務局も、日ごろの農業委員会の役割や業務について、チラシの配布やパネルの展示でPRを行いました。

さらに、きた地区JAまつり、JA田奈農業まつり、JA横浜和泉支店農業まつりでは、野菜の塗り絵や折り紙を用いた参加型のPR活動も行い大好評でした。



神奈川県農業会議の賛助会員費について

今年度も多くの皆様に御協力いただき、ありがとうございました。賛助会員費は、神奈川県農業会議の農政対策活動に充てられるとともに、横浜市農業委員会の事業にも活用されています。

中央農業委員会管内 1,785,500円

南西部農業委員会管内 1,187,400円

農業委員紹介

このコーナーでは、順に全委員を紹介していきます。

凡例 委員会名 氏名
担当地区

(会長職務代理者)

中央 杉山 敏幸

二俣川 (旭区・保土ヶ谷区) 地区

水耕栽培でトマト専作を20年。その後、露地野菜を22年行い現在に至っています。露地野菜の仕事は「晴耕雨読」という感じで温室に比べ精神的に楽です。

農業委員で大変なことは、夏の暑い時と冬の寒い時の現地調査です。昨年2月の大雪には閉口しましたが、皆様のために職務に清励していく所存でございます。



中央 平本 雅章

神奈川 (神奈川区) 地区

私は昭和39年に国の農業後継者育成資金の融資を受け、農業経営の重要性を体験し、それ以来、技術と経営の両面から、この50年、農業をやってきました。初めは野菜の市場出荷、次に常設の直売所、そしてブドウと多角経営ですが、家族の協力もあり経営は順調です。今後はこうした経験を生かし農業後継者の育成に努めたいと思います。



中央 大澤 博

都田 (都筑区) 地区

川和・佐江戸地区を担当している大澤です。この地区は農用地区域を中心に畑がひろがり、川和町駅周辺の畑では様々な作物が栽培されています。私は露地野菜の直売のほか、栽培収穫体験ファームを開設しており利用者とともに野菜作りを楽しんでいます。

これから3年間、微力ながら地域農業の発展のために頑張りたいと思います。



中央 三村 孝治

保土ヶ谷 (保土ヶ谷区) 地区

小生昭和22年生まれの67才です。7アールのトマトハウスと1ヘクタールの露地野菜を家族4人で栽培し、主にJAMエルカート、ハマっ子に出荷しています。農業委員として約半年たち少しは慣れてはきましたが、まだまだ分からない事ばかりで緊張感を持ってやっています。

少しでもお役に立てるよう努力したく、今後ともよろしくお願いたします。



中央 阿部 敏

都岡 (旭区) 地区

都岡地区西部の川井、上川井を担当して、二期目になりました。専業農家の父と露地野菜、栗等を栽培しています。

担当地区は、米軍基地返還による上川井農専地区の利用が、重要な問題の一つです。後継者不足の問題と併せて、今後の地区のより良い方向付けを目指して日々精進していきたいと思っています。



(会長職務代理者)

南西部 川口 篤

瀬谷 (瀬谷区) 地区

6年前から上瀬谷小学校の児童に、さつまいも、夏野菜、大根などの種まきや植付けから収穫までを指導しています。農作業を通じて、草むしりの大変さや気候に左右される難しさなどを体験し、また新鮮な野菜のおいしさを知ること、野菜に対する関心が高まり偏食も減ってきたそうです。

この体験が、子供達が将来を考える一つのきっかけになればと思っています。



南西部 清水 明雄

和泉 (泉区) 地区

和泉地区は、和泉川の両側に農地が広がる緑豊かなところでしたが、近年、鉄道や道路が整備され、急速に宅地化されています。そのため専業農家が減り、大部分が兼業農家です。また、後継者不足や納税のために土地活用を余儀なくされ、農地や山林の維持が困難になっています。

農業を取り巻く環境は今後も厳しくなると思いますが、緑豊かな農地を後世に残せるようにしたいものです。



南西部 小澤 薫

瀬谷 (瀬谷区) 地区

瀬谷地区は横浜の西部に位置しており、私が担当している地区では下瀬谷・南瀬谷・宮沢などで盛んに農業が行われています。農業を取り巻く環境は厳しく、早朝からの機械の使用や薬剤散布などは周囲に気を遣います。また、税制面においても厳しく、農地を維持して緑豊かな環境を後世に残していくには課題があります。

今後の農業の好転を期待したいものです。



農地の情報がインターネット等で取得できるようになります

農地法の改正により、市街化調整区域内に所在する農地は、農地に関する情報（農地に関する地図を含む）を公表することが義務付けられました。これに伴い、横浜市内の農地に関する情報についても、平成27年度にインターネットや農業委員会の窓口で取得できるようになります。

提供する主な情報

情報の提供方法	インターネットの利用	農業委員会の窓口	
		書面の閲覧	書面の交付
所有者等の氏名・名称	×	○	×
農地の所在、地目、面積及び賃借権等の情報	○	○	○
その他、都市計画法等の区域区分など	○	○	○



※農業委員会の窓口での書面の閲覧又は交付は、所定の手数料がかかる予定です。



横浜市からのお知らせ

「横浜市の都市農業における地産地消の推進等に関する条例」4月1日施行

横浜市での地産地消の推進に、市、生産者、事業者及び市民の皆様と協力して取り組みます。市内産農畜産物の利用促進、また、これらを利用した製品を有効に活用し、6次産業化やブランド化を進め、その魅力を市内外に発信します。

●問合せ 環境創造局農業振興課 ☎ 045-671-2637

農を考える



ようこそ横浜農場へ

「横浜農場」、関係者が手を携え互いを理解しながら本市の都市農業を振興し、市民の豊かな食生活が生まれていく。そんな姿を目指した農の魅力のPR、プロモーションが必要とされています。また「横浜農場」を知らない人に本市の農の魅力を呼びかけアピールしましょう。「ようこそ横浜農場へ。」と。

「横浜農場」の構成員には農家はもちろん、行政、事業者も入ります。農畜産物にはこれから新しく生まれてくるものや、6次産業により、より高い付加価値がうまれるものもあるでしょう。

横浜市の今後の施策をまとめた中期4か年計画。この計画に「横浜農場」ということを新たに盛り込みました。「横浜農場」とは「意欲的な農家や多彩な農畜産物、都市に残る貴重な農景観など、横浜の農業の魅力を発信していくための総称」です。

担い手不足や高齢化など、厳しい状況にありながら意欲的に経営向上を目指す積極的な農業者が横浜には数多くいます。また、郊外部を中心に住居のすぐそばに様々な機能を持つ豊かな農地がひろがっています。さらに、県内トップクラスの生産高を誇る魅力的な農畜産物が生産されています。意欲ある農家が豊かな農地の中ですばらしい農畜産物をうみだしている。それが横浜の農です。